自動リンクの解決方法

シェイプファイル (*.shp) や JPEG2000(*.jp2) などの、TNT 製品で直接利用が可能なファイルを選択すると、スタイルや ジオリファレンス情報などの必要なデータコンポーネントが見つからない旨を知らせるウィンドウが出ることがありま す。必要なコンポーネントがないというメッセージは「自動リンクの警告」または「解決すべき自動リンク問題」ウィン ドウに表示されます。非常に多くの要素のあるレイヤを選んだときに〈密集レイヤ確認 (Dense Layer Verification)〉ウィン ドウが出ることもあります。このウィンドウは TNTmips のプロジェクトファイルフォーマットの図形オブジェクトに ついても同様の状況で現れることがあり、テクニカルガイドの「巨大ベクタの表示の管理 (Managing Display of Large Vectors)」で解説されています。直接使用できるファイルの一覧はテクニカルガイドの「外部空間データファイルの自動 オープン (AutoOpen External Spatical Data Files in TNTmips)」の裏面をご覧ください。



〈自動リンクの警告〉ウィンドウはいたってシンプルで、単に必 要なコンポーネントが見付からず TNT 製品ではそれ以上解決でき なかった、ということを知らせるだけです。このウィンドウはス タイル情報などのオプション情報の欠損にも使用されます。警告 ウィンドウが表示されたプロセスでそのオブジェクトに対して新 しいスタイルを作ることができます。付随するスタイル情報はあ るが、実は名前が違っているということもあります。シェイプファ イルに関するスタイル情報があったはずであれば、シェイプファ イルのあるフォルダをチェックしてください。シェイプファイル と違う名前の*.avlファイルがあるかもしれません。もし適合した

シェイプファイルがあれば、他の関連ファイルと同じファイル名に変更して、リンクファイル (*.rlk) を消去します。そ して再度シェイプファイルを表示してみます。リンクファイルには、データベーステーブル、ベクタの最適化情報、ラ スタピラミッドのような、もともとのフォーマットではサポートされていない追加情報が含まれています。リンクファ イル中にスタイル情報が残っている可能性があるので、リンクファイルに大きな変更を加えていなければ、リンクファ イルを削除してみて下さい。

巨大ラスタでのピラミッド作成は、画像を全体表示したり、最大解 像度以下で表示する場合重要です。ウェーブレット圧縮を使っていて 直接表示可能なラスタファイルは JPEG2000、MrSID、ECW ファイル ですが、もともとピラミッド構造を持っています。他のラスタファイ ルにはピラミッド構造はありません。画像の各辺が 1000 セル以上あ るピラミッド構造を持たない外部ラスタファイルを選択した場合、〈解 決すべき自動リンク問題〉ウィンドウが出ますので、3つの方法から処 理方法を選択します。ピラミッド作成後の表示時間の改善と比べれば、 巨大ラスタのピラミッド化にかかる時間は、十分小さく、価値があり ます。これらのピラミッドは、他の表示パラメータに対する修正と同様、 同じ名前のリンクファイル (*.rlk) に保存されます。高解像度ディスプ

| File: '/Data/lanc | l_shallow_topo_west.tif |
|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| One or more la pyramid tiers v | rge rasters in auto-linked file is not pyramided. Creating vill make display and other processes much faster. |
| Choose desired | resolution below. |
| — Raster Pyran | nids |
| 🕽 Do not pyr | amid |
| 🗂 Create for | this file only |
| Chernete for | all files of same type in folder |

レイがあり、選択したラスタのサイズが各辺 1000 ピクセル以下であればピラミッド構造を作らない選択をしてもよい でしょう (最大詳細度でラスタ全体を表示しても表示ウィンドウに収まるので)。それ以外の状況では、ラスタのピラミッ ド化を強くお勧めします。ファイルのピラミッドを生成するオプションとしてファイルを1つ1つ表示して適用するか、

またはフォルダにある同タイプの全ファイルに対して適用するかはあな 🗙 Auto-Link Issues to Resolve File: 'E:\Fdrive\DGN\PUT.dgn' Jnable to determine coordinate reference system for one or more auto-linked spatial objects. Choose desired resolution below No style information found, default styling will be used when displaving. Coordinate Reference System Leave as Engineering/Local Ask for and set for this file only Ask for and set for all files in folder OK

たの自由です。

例えば、測地系が定義されていない等でファイルの座標参照系情報が 不完全な場合、座標情報を自動リンクファイルの一部として与えられま す。座標系の情報が無かったり、ファイルがローカルの座標系を使用 している場合は、「ローカル座標のままにする (Leave as Engineering/ Local)]を選択して下さい。詳細情報がすぐに分からないが、表示し たければ、[サポート / メンテナンス / 座標参照系の修正 (Support/ Maintenance/Change Coordinate Reference System)]を使って正しい座 標参照系を定義できます。情報がすぐに入手できるのであれば、デフォ ルトのオプションを選択して、提供する情報を選択したファイルのみに 適用するか、または、[フォルダ中の全ファイルに確認し適用する (Ask and set for all files in folder)] を選択して、〈座標参照系〉ウィンドウで 指定する情報をそのフォルダの同じ種類のファイル全てに適用します。